



4 種混合ワクチン(百日咳・ジフテリア・破傷風・ポリオ) についての説明

静岡県立こども病院 予防接種センター

1) 病気の説明

○ジフテリア

ジフテリア菌が原因です。咽頭ジフテリアは、発熱、嘔吐、頭痛や咳などが主な症状で、扁桃に白い膜ができます。咳は犬の鳴き声に似た感じで、呼吸困難がみられ、最悪の場合窒息死することもあります。声はかすれたり、しわがれたりします。鼻ジフテリアは鼻の症状が強いものです。毒素により心臓や神経が侵されることもあります。

○百日咳

百日咳菌が原因です。百日咳には 3 つの段階があります。カタル期:咳や鼻水などのかぜ様症状が約 1～2 週間続きます。痙咳期:連続性の激しい咳が発作性に起こり、その間は息を吸うことができません。咳発作の後に急に強く息を吸うので笛のような音がします。乳児では症状が重く、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。また、脳の重たい病気を併発し、後遺症を残すことがあります。回復期:咳発作の回数は次第に減少し、2～3 週間でなおります。

○破傷風

破傷風菌が原因です。土の中に広く分布しており、けがややけど、すり傷から人の体内に侵入します。体に入った菌は増殖し、毒素を産生して神経を侵します。発症すると激しいけいれんが続き、現在でも死亡率の高い疾患です。45 歳以上の人はワクチンを接種していないことが多く、感染のリスクが高いことが知られています。

○ポリオ

ポリオの原因はポリオウイルスで、口から体内に入って感染し、腸管内で増殖して便中に排泄されます。感染してもたいていは無症状ですが、5～10%に夏かぜ症候群と呼ばれる軽いかぜ症状や胃腸炎が見られます。まれにポリオウイルスが脊髄に侵入することがあり、感染者の 1,000～2,000 人に 1 人の割合で麻痺が発生します。一部の患者では、麻痺が永久に残ります。

2) ワクチンの効果

ジフテリア、百日咳、破傷風およびポリオに対して、ほぼ 100%の確率で十分な免疫が得られます。

3) ワクチンの特徴

ジフテリア菌と破傷風菌の毒素を精製無毒化したトキソイドと、精製百日咳菌抗原、および I 型、II 型、III 型の 3 種類のポリオウイルスを不活化した成分を含む不活化混合ワクチンです。

4) 接種方法

第 1 期接種:生後 3 か月から 90 か月(7 歳 6 か月)までの間に済ませます。

第 1 期	初回接種	20 日から 56 日(3～8 週)の間隔をあけて 0.5ml を 3 回皮下接種
	追加接種	初回接種終了後 6 か月以上の間隔をあけて 0.5ml を 1 回皮下接種

5) 副反応

接種後1～2日目に4割程度で発熱がみられます。また、6割程度で注射部位の発赤やしこりなどの異常がみられます。これらの副反応は初回では比較的少なく、その後接種回数が増える毎に増加する傾向があります。このような反応は数日で自然におさまりますが、しこりは縮小しながらも数か月続くことがあります。まれに肘をこえて腕全体が腫脹する副反応が見られることがありますが、保存的な加療（冷湿布や軟膏外用など）で消退します。きわめてまれにアナフィラキシーや脳症などの重たい副反応が出現する可能性があります。

6) 接種上の注意点

百日咳患者は2歳未満が約半数を占めているので、4種混合ワクチンの接種はなるべく早期に実施してください。

7) 接種後の注意

ワクチン接種後30分間は院内にとどまり、様子を観察してください。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ、看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

8) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。